2019年4〜6月期GDP予測
～輸出は底追いも内需堅調で3四半期連続のプラス成長～

（1）2019年4〜6月期の実質GDPは、前期比年率+1.2%（前期比+0.3%）と、3四半期連続のプラス成長になった見込み（図表1）。1〜3月期に大きく落ち込んだ輸出の回復力は弱かったものの、個人消費などの内需が堅調に拡大。

①個人消費（前期比年率+4.1%、前期比+1.0%）
2四半期ぶりの増加。雇用・所得環境の改善が続くなか、改元に伴う10連休もあって、旅行や外食などサービス消費が堅調に拡大（図表2）。また、耐久財消費でも、消費増税前の駆け込み需要が顕著。
②設備投資（前期比年率+1.6%、前期比+0.4%）
3四半期連続の増加。人手不足や設備の老朽化を受けて、合理化・省力化投資や維持・更新投資を中心に、底堅く推移。
③公共投資（前期比年率+8.6%、前期比+2.1%）
2四半期連続の増加。災害復興関連をはじめとした2018年度補正予算の執行が本格化し、プラス幅が拡大。
④外需（前期比年率寄与度▲+1.0ポイント、前期比寄与度▲+0.5ポイント）
輸出は前期比年率+1.7%の増加。もっとも、米中貿易摩擦や中国経済の減速が重石となる状況が続き、前期の落ち込み（同▲-9.3%）からの回復力は脆弱。一方、輸入は増税に伴う内需を反映し、同+13.5%と大幅に増加。この結果、外需はマイナス寄与に。

（2）2019年7〜9月期を展望すると、外需については、6月末のG20大阪サミットにおいて米中首脳が米中貿易戦争の一時休戦で合意したこと受けて、輸出の下振れリスクが目先後退した一方、内需は10月の消費増税を控え耐久財を中心に駆け込み需要が強まることから、成長率は上振れる見込み。
<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>実質GDP</th>
<th>名目GDP</th>
<th>住宅投資</th>
<th>官公需</th>
<th>名目GDP</th>
<th>実質GDP</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>2018/1</td>
<td>1.4</td>
<td>1.4</td>
<td>1.0</td>
<td>0.0</td>
<td>202.7</td>
<td>0.7</td>
</tr>
<tr>
<td>2019/1</td>
<td>0.3</td>
<td>0.3</td>
<td>0.0</td>
<td>0.0</td>
<td>1.2</td>
<td>3.0</td>
</tr>
<tr>
<td>2020/1</td>
<td>0.1</td>
<td>0.1</td>
<td>0.0</td>
<td>0.0</td>
<td>0.5</td>
<td>0.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(注1) 民間在庫、公的在庫、外需の前期比、前年同期比はそれぞれ前期差、前年同期差。
(注2) 実績値は、基礎統計の追加、季節調整のかけ直しなどの要因により、内閣府公表の数値とは異なっている可能性もある。